

普及のための活動を少し話しますと、お茶の効能の研究などを大学や研究機関に依頼して、お茶がもつ健康機能の研究、宇治茶に関わる伝統技術の保存、茶の品質向上から宇治茶文化に対する理解促進まで、幅広く取り組んでおります。毎年お茶の品評会があり、品評会に出品する方々への奨励活動、「八十八夜新茶の集い」では多くの人を招いて実際にお茶の新芽を摘んでいたイベントもやっています。秋には「茶まつり」などの宇治茶普及活動もあります。最近では、宇治川のもとにある宇治茶道場「匠の館」で、お茶を専門的に教えるインストラクターが玉露、抹茶などの宇治茶の入れ方をマンツーマンで教えることなどにも力を入れております。私の会社は宇治平等院の近く、閨夜の奇祭で有名な縣神社の門前で店舗を構え、明治12（1879）年創業で、私は六代目です。

本日は「宇治茶の奥深さを知る」というタイトルに即してお話を始めます。宇治茶は800年の歴史があります。800年前は鎌倉時代、京都・建仁寺を開山した榮西禪師が中国からお茶の種を持ち帰られたことがお茶の始まりとされます。榮西禪師は、その時「喫茶養生記」という「お茶を飲むことによって命を養う」お茶の効能や飲み方の指南書を残され、お茶が広められました。榮西禪師はお茶の種を弟子の明恵上人に分け与え、明恵上人は「鳥獣戯画」でお

### ●品質向上から宇治茶文化への理解促進まで多彩に展開

京都府茶業会議所は宇治茶の生産者の団体である京都府茶生産協議会と流通業者の京都府茶協同組合の団体を会員とし、宇治茶の普及活動に携わっており、私はその会議所会頭を務めています。

講演

# 宇治茶の奥深さを知る

公益社団法人 京都府茶業会議所会頭  
株式会社「堀井七茗園」六代目園主  
代表取締役社長

堀井長太郎



2024年8月3日に開かれたおてつき文化講座「宇治茶の奥深さを知る」の要旨を採録しました。



堀井長太郎（ほりい ちょうたろう）

1949（昭和24）年生まれ。同志社大学文学部卒業。1992（平成4）年から堀井七茗園の六代目園主。先代とともに新品種の育成に取り組み、碾茶「成里乃」で2012年全国茶品評会で農林水産大臣賞受賞。同賞受賞は通算12回。宇治茶の生産から販売までを手掛ける一方、平安神宮や宇治・縣神社での「茶壺口切りの儀」、国内外でのメディア出演などを通じて、宇治茶の魅力を発信中。宇治茶伝道師。2019年、旭日双光章受章。2019年から公益社団法人・京都府茶業会議所会頭。